

災害に強い地域を作りませんか？

地域の防災力

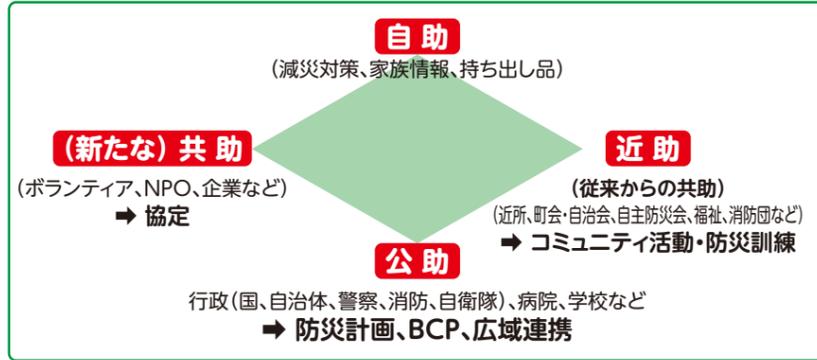
防災の担い手は、自分の命は自分で守る「自助」、隣近所で助け合う「近助」、そして、災害の時に支援するボランティアや企業などの「(新たな)共助」、行政による「公助」があります。この4つが強くなければ、災害対応はうまくいきません。

災害発生時には、自助・近助・共助・公助の連携により人的、物的被害を軽減することができます。

石垣市には、現在45の自主防災組織があります。災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため「自主防災組織」の活動を通して近助・共助の強化で地域の防災力の強化に向けた取り組みに参加しましょう。

自主防災組織とは？

- 災害発生時にはもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。

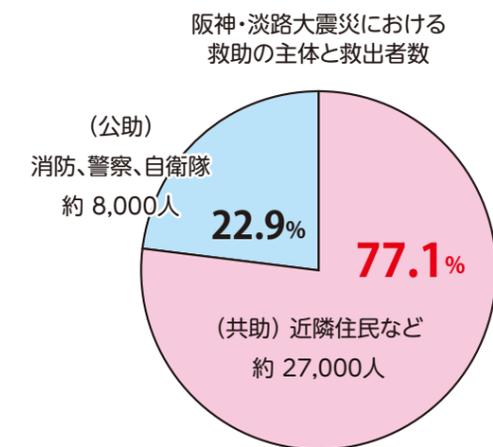


各班の日頃(平常時)と緊急時(災害発生時)の活動内容は概ね次のような役割になります。

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民に対する連絡体制、手段の検討 ● 情報収集・伝達訓練の実施 ● 防災意識の啓発、高揚に関する広報 ● 公的防災機関との連携確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期消火訓練の実施 ● 消火用水の確保、確認 ● 出火防止の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に避難経路、避難場所を把握 ● 避難誘導訓練の実施 ● 避難経路の安全点検 ● ※危険箇所(がけ、ブロック塀)などの確認等 ● 避難行動要支援者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ● 応急手当、衛生知識の普及 ● 救命講習への参加 ● 応急医薬品、救助資機材の確保、点検 ● 技能、ノウハウを持った住民の把握 ● 救助用資機材の点検・確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発 ● 炊き出し訓練の実施 ● 炊き出し用資機材の確保、点検
緊急時	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ● 地域内の被害情報を収集し、本部へ報告 ● 混乱回避、出火防止等の広報 	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期消火活動 ● ※消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本です。無理はしないこと!! ● 情報班と連携しての出火防止等の広報 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報班と連携しての避難の呼びかけ ● 安全な経路を選択しての避難誘導 ● 避難行動要支援者の避難支援 ● 避難地での安否確認 ● 安否確認による救出救護班への情報伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難誘導班と連携しての速やかな救出 ● ※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意してください ● 負傷者の搬送、応急手当の救護 ● 避難所・救護所での救護活動への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食料や水、救援物資等の受入、配布 ● 必要に応じて炊き出し

石垣市では、地域コミュニティ密着型の防災・減災を重点課題として地域防災力の向上に取り組んでいます。

地域防災活動の具体化においては、第一に、地域防災の担い手であるコミュニティ構成員(自治会役員・地域住民等)が、その地域の課題や目標を共有することが大切であり地域防災力向上のためには、自治体の地域防災計画と地域コミュニティの「地区防災計画」の連携が重要となります。そのような観点から地域コミュニティ主体の「地区防災計画」が策定されることの意味は大きく、石垣市では、地域コミュニティにおける防災のバイブルとなることを願って、地域自治会・自主防災会等と協働で「地区防災計画」を策定し、石垣市地域防災計画との連携をもって地域防災力の強化を図ります。

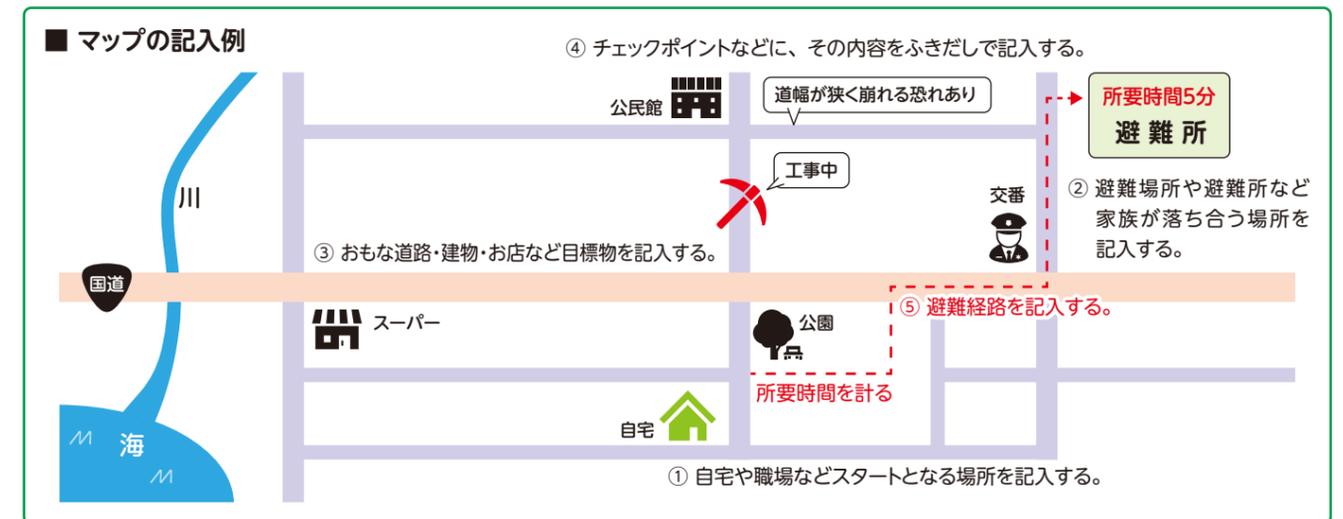


出典:「大規模地震災害による人的被害の予測」(1997) 自然科学第16巻 第1号より

「地区防災計画」は、地区居住者等により行われる防災活動に関する計画であり、地区居住者等が活動する地域コミュニティが主体となったいわゆるボトムアップ型の計画です。また、地区居住者等による計画提案制度が採用されていることもボトムアップ型の一つの要素です。防災マップ等を活用し地域の特性を踏まえた計画を提案しましょう。

「わが家の防災避難マップ」をつくろう

「わが家の防災避難マップ」を作ってみましょう。自宅や職場・学校などから、避難場所や避難所までを範囲として、いざというときの避難経路選びなどに役立てましょう。



※最適な避難経路は、出発地点(自宅・職場など)や時間帯(平日と休日・昼と夜など)だけではなく、まちの変化(道路工事や新しい危険の発見など)によっても変わってきます。まちの変化を繰り返しチェックし、わが家の防災マップに新しい情報をくわえていきましょう。